

# 論壇

## 世界で景気拡大モード

2017年も、もうわずかで終わろうとしている。今年はこのよ  
うな年だったのか振り返ってみる  
良い機会かもしれない。

経済という面から見れば、大変  
に好調な1年であったと言つて良  
いだろう。一般の国民のレベルで  
景気が良いという実感は乏しいか  
もしれないが、いろいろな経済指  
標を見る限り、近年にないような  
良い数字となっている。企業の利  
益は過去最高益を更新している。  
失業率は過去20年で最も良い数字  
である。こうした結果もあるだろ  
うが、株価も20年来の高さとなっ  
ている。

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

こうした好調さは日本だけのこ  
とではない。米国でも、欧州でも、  
そして中国をはじめとする新興国  
でも、経済は好調な状態である。  
世界全体が景気拡大モードにある  
ということが、日本の景気の先行  
きにも期待を持たせる。来年もこ  
うした好調が続くということ应予  
想する専門家が多い。デフレから

ていかない。中小企業の経営者か  
ら見れば、人手不足で経営が圧迫  
されている。賃金が多少増えても、  
同じように社会保障料の負担が増  
えているので、実質所得は増えて  
いない。高齢化が進む中で、医療  
や介護の将来に不安を抱えている  
人が多い。

あつたが、その政策の効果を国民  
生活に結びつけるためにも、雇用  
や社会保障制度の改革に取り組み  
必要がある。

### 雇用や社会保障改革を

## 好調だった2017年経済

の脱出を目標とした経済政策運営  
であったが、このままの状態が続  
いていけば、その目標を達成する  
時期も近いかもしれない。

取り組まなくてはいけないのは、  
景気を刺激するようなマクロ経済  
政策だけでなく、雇用環境を改善  
したり、社会保障制度を強化した  
りする改革であることが分かる。

余った分野から足りない分野に労  
働を移動させることができれば、  
全体の賃金も上がるし、人手不足  
の問題を軽減することができるは  
ずだ。

こうした改革は、少しずつでは  
あるが、足元で起きてはいる。た  
だ、それをもっと本格的に動かし  
ていかななくてはいけない。マクロ  
経済政策で達成してきた景気回復  
をもっと国民的レベルで実感がで  
きるようにするため、これからは  
雇用や社会保障などでのさらに大  
胆な改革が求められる。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。